

ロイヤル ダッチ シェル ADR B (RDSB)

【セクター】 エネルギー

【市場】 NYSE

【企業概要】

世界有数の総合エネルギー企業で、オランダのロイヤル・ダッチと英国のシェルが経営統合した企業です。原油・天然ガスの生産を行う上流部門から石油製品・化学製品の生産・販売を行う下流部門まで幅広い事業を手がけています。2019年の石油換算生産量は日量3.7百万バレル、2019年末の原油確認埋蔵量は111億バレルで、運営するガソリンスタンドは4万店以上となっています。なお、業績表の1株あたりデータは1ADR（＝普通株2株）に対応する値です。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

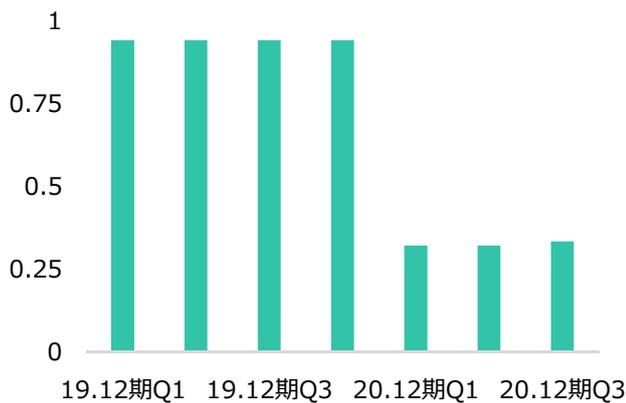
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
18.12期	388,379	21,404	5.16	3.76	48.5	11.9	50.7
19.12期	344,877	16,462	4.08	3.76	47.5	8.2	47.1
20.12期（予）	230,662	4,938	1.46	1.58	43.2	2.8	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

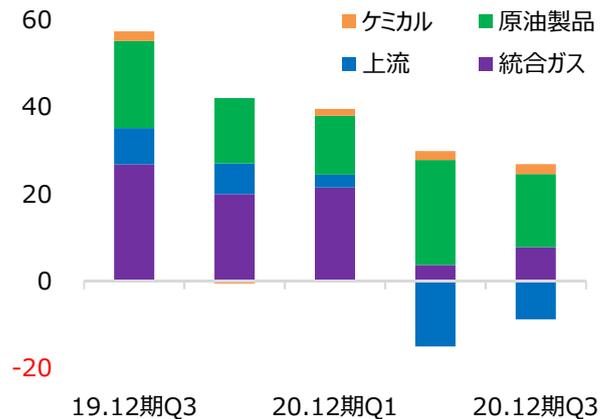
【主要指標】

四半期配当額の推移（ドル）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

主要セグメントの純利益（億ドル、調整後）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

大手総合エネルギー企業のなかでは天然ガスの事業比率が相対的に高いことが特徴で、天然ガスの需給は原油の需給よりも良好に推移すると見込まれることから、業績は他のエネルギー大手に比べ好調に推移する可能性があります。もっとも、2020年4月30日に第二次世界大戦以降初めての減配を発表し、配当金をこれまでの約1/3に減らしていることから、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた原油価格の急落などから、同社も無傷ではいられませんでした。

【見通し・注目点】

7-9月期は売上高が前年同期比で49%減となったほか、調整後純利益も同80%減となり、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大を受けた厳しい状況が続いていることが示唆されました。また、2020年4月に発表した大幅減配と比較するとわずかな額ですが、配当を約4%増加すると発表し、積極的に配当の支払いを行っていく姿勢を示しました。

（SBI証券 投資情報部 中川 潤一）

（更新日 2020/11/12）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。